

鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会 (第14回) 会議録

会 議 年 月 日	平成 24 年 9 月 25 日 (火)		
開 会	午後 2 時 00 分	閉 会	午後 2 時 20 分
場 所	6 階 全員協議会室		
出 席 委 員 (9 名)	委 員 長 橋尾泰博 副委員長 房安 光 委 員 島谷龍司、伊藤幾子、桑田達也、湯口史章、上紙光春 上田孝春、上杉栄一		
欠 席 委 員	なし		
委 員 外 出 席	石田憲太郎、平野真理子、寺坂寛夫、砂田典男、谷口秀夫		
事 務 局 職 員	局次長：勝井節朗、議事係長：蜂谷知哉		
出 席 説 明 員	総 務 部 長 : 羽場 恭一 庁 舎 整 備 局 長 : 亀屋 愛樹 庁舎整備局長補佐 : 竹内 一敏 財産管理課管材係主幹 : 福井 一朗 庁舎整備局主任 : 宮崎 学 庁舎整備局専門監 : 前田喜代和 文 化 財 課 長 : 林 佳史 文 化 財 課 主 任 : 加川 崇		
傍 聴 者	6 名 (別添のとおり)		
傍 聴 者 (報 道)	日本海新聞、建設工業新聞、情報ネット、 日本海ケーブルネットワーク		
本日の会議に付した事件	別紙資料のとおり		
備 考			

午後2時00分 開会

◆橋尾泰博 委員長 それでは、ただいまより鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会を開催をいたします。本日、執行部の方から埋蔵文化財の調査結果並びに本庁舎敷地の土壤汚染状況調査について報告があるという申し出がございましたので、まず、その2点について報告を受けたいとこのように思います。それでは林課長の方からよろしく願いいたします。

○林 佳史 文化財課長 はい。文化財課でございます。6月の11日から市役所前駐車場の試掘調査を実施してまいりました。9月の15日まで約3カ月調査をしてまいりましたので、その結果を御報告させていただきます。この調査につきましては、以前も御説明をさせていただきました薬研堀の一番古いラインはどこであったのか、これについて調べるのがまず第一の目的ということでございました。それで、資料の方で写真を3枚載せております。それぞれ、トレンチ1、トレンチ2、トレンチ3ということでお示しをしております。概要を申し上げますと、1面、2面、3面とも同様の様相を呈しているということでございます。まず、一番深い面、これが約3mのあたりで、もともとの薬研堀があったということで、このラインが、水色の点線で示したラインでございます。ここよりも、この写真でいきますと、上側については町屋の地域であったということでございます。そして、その時点から水色の実線のライン、ここまで江戸時代に埋め立てがまず行われました。そして、最後に、近代に最後の埋め立てが行われたということで、合計、この面では3層ですね、3層の面が確認されたと、一番深いところが3m、それで、江戸時代で1.3mのところまでできました。そして、第3面、近代のあたりで60cmあたりまできたというようなことでございます。

ですので、想定を我々がして、もともとしていたものが、良好な状態で出たというようなことが言えるかと思えます。そういたしますと、今度は庁舎整備に取りかかろうとすると、本調査の必要が出てまいりますので、(2)ということで埋蔵文化財の本調査の案ということでお示しをさせていただいております。このことにつきましては、市議会の寺坂議員さんの方の御質問に対して、教育長の方がお答えした内容が図面に落ちているということで理解いただければと思えます。まず、調査をかけますのは、一応整備が全面をされるということで仮定をいたしますと、この調査範囲をまず2つに分ける必要があるのかなというふうに考えております。第1、第2、第3、第4ということで、まず半分に分けるとこの左側の方がいわゆる砂利の駐車場、右側の方がアスファルトの駐車場になりますが、半分で分けますと真ん中の通路とアスファルトの駐車場の1列部分、ここらあたりで半分になろうかと思えます。そうしますと、それぞれ、だいたい9カ月ぐらいかかってくるのかなというふうに考えております。調査の規模としましては、調査員を2名、作業員の方がだいたい20名ぐらいいかかるとそれぞれ9カ月ずつかかるのかなということで想定をしております。9カ月と申しますと、文化財調査は雪の降る1、2、3カ月というのは、通常行うことができませんので、4月から入りますと、12月ぐらいいまでかかるというようなことになるのかなと思っております。

まず、じゃあ調査するときはどういった順序でするかということでございますが、まず第1調査区で土を掘り出します。約3m掘っていきますので、残土をだいたい1mぐらいまで置く

ことになりますので、例えば3mぐらいまで掘削をするとすれば3倍以上の面積が必要になってまいります。ですので、第1調査区を掘削しているときには、第2調査区も残土置き場になる、それから上の灰色の部分についても残土置き場となるというようなことで、全面が調査、調査のために駐車場が使えなくなるような状態になってくるというようなことでございます。それで、それぞれ第2、第3、第4についても同様というようなことになってくるというふうに想定をされます。調査費用につきましては、この調査面積というのが1,628ということで書いておりますが、ここの1層分が1,628ということになりますので、1回掘って、もう一度深く掘って、最終的にもう1回掘るんで、3倍の面を掘る、3つの面を掘るということになりますので、だいたい平米単価というのが2万6,000円というのが一般的な相場でございます、だいたい1億2,700万円ぐらいというようなことで、概算ですがはじき出しております。以上でございます。

◆橋尾泰博 委員長 はい、御説明をいただきました。委員の皆さんの方で何か御質問等があればお願いをしたいと思います。ございませんか。はい、上杉委員。

◆上杉栄一 委員 本調査の今説明がありましたけれども、それぞれ9カ月、9カ月で、これは同時進行でいかれるのか、要するに駐車場の確保の問題があるわけで、そのようなのは片側をやって9カ月、それから冬場がだめだということですから、これの日程から見ると、4月から12月まで、それで、次の年の4月から12月まで、新しいと言うか、本調査になるのかなというふうに考えるんだけど、そのことについてちょっとお伺いします。

◆橋尾泰博 委員長 はい。

○林 佳史 文化財課長 はい。御質問は2カ年に渡るのか、1カ年で済ましてしまうのかというあたりかと思いますが、全体工程というのがまだ見えてきておりませんので、なかなか申し上げにくいんですけども、駐車場の問題、駐車場が一気にゼロになるという、まず問題が1つございます。それから、先ほど調査員が2名、作業員が20名というようなことを御説明しました。マンパワーが大変かかる事業でございます。それで、この発掘調査、誰でもできるというものではございませんでして、具体的に言えば文化財団の埋蔵文化財センターに依頼するということになるかと思いますが、そうすると、調査員が4名になるというようなことはなかなか難しいのかなと、具体的には、今、日赤の方も昨日から試掘調査が、実は建て替えの関係で入っております。本調査が来年の多分同じ頃、4月頃に入ってくるのではないかなというふうに想定しておりますので、現実問題として、そこの人の確保ができるのかなということは考えておりますが、全体工程の中で、そこらあたりも含めて話の中に入れていただければというふうに思っております。

◆橋尾泰博 委員長 はい、上杉委員。

◆上杉栄一 委員 ということは、いっぺんになかなか両方のというのは厳しいということであるならば、工程からするとこれからの協議になるんですけども、半地下の駐車場の工事というのはここが終わらないとできないわけで、そうするとこれに2年を、最短に、別々にすれば2年を要するということになれば、もう既に26年度を過ぎるわけですね、当初の計画からすれば26年度末までという計画があるわけだけでも、もうこれで、今後の協議もあるでしょうけれ

ども、かなり 26 年度中にここの整備というのは大変厳しい状況なのかなというふうには思っておりますので、これは後のまた議論にしたいと思えます。以上です。

◆橋尾泰博 委員長 はい、その他ございますか。そうしましたら報告を受けたということで切らせていただきますがよろしゅうございますか。はい。ありがとうございます。それでは、次に本庁舎敷地の土壌汚染状況調査について御報告をいただきたいと思えます。はい、市庁舎整備局。

○亀屋愛樹 庁舎整備局長 はい。それではお手元にレジユメを置いております。鳥取市役所の本庁舎敷地の土壌汚染状況調査の結果についてということでお配りしております。これは以前、特別委員会の方にも調査を実施するというので、調査理由につきましては、市庁舎の耐震改修案については、土地の掘削面積が 3,000 m²以上となる見込みであり、その場合、土壌汚染対策法に基づく届け出が必要となると。本庁舎の敷地については、基準値を超える物質が近隣で検出されている。これは片原の貯留管のところでございますけれども、検出されていることから法律に基づく調査を先行して実施したものでございます。それで、この内容につきましては、敷地内の 2 地点を掘削いたしまして、3 番目に調査結果として挙げております。土壌の溶出量の調査につきましては、基準不適合物質ヒ素が検出されております。

それから、2 番目の土壌含有量調査については全て基準適合ということで、これは別紙、次のページに別紙でお配りしておりますけれども、1 番目の別表 1 というところに土壌溶出量調査結果、これは酸性の水、雨水程度によって溶出される重金属、これの量を測定した数値でございます。ここで、黄色い枠で囲っておりますけれども、基準値が 0.01mg と、10あたりという基準値がありますけれども、この表で見いただきますと A 地点、D 地点共に 10m の掘削した中で、1 m 単位で区切って検出しておりますけれども、おおむね 50 cm の層、それから 2 m ~ 3 m の層、6 m ~ 7 m の層、9 m ~ 10 m の層ということで、ヒ素が基準値よりもオーバーということで検出されております。それで、今後の対応として書いておりますども、採取した 2 地点ともヒ素が基準値に適合しなかったため、この調査対象全体、この市役所の敷地全体ですけれども、網掛けしておりますこの敷地全体が土壌溶出量基準に適合しない土地ということでみなされてしまいますので、今後工事によりまして、掘削によって土壌を市役所の敷地外に搬出する場合には、法律に基づいた運搬処理を行わなければならないということが、この結果について出ております。以上、簡単ですけれども土壌汚染の状況調査の結果について報告させていただきます。

◆橋尾泰博 委員長 はい、報告をいただきました。委員の皆さんで御質問等があるかたは、挙手の上発言をお願いしたいと思います。ございませんか。1 つ確認ですけれども、以前貯留管の工事をした折に、何ですかいな、千代水のところに土を持って行って、何立米かごとに土地を検査をして、それでヒ素が入っている土と入っていない土と仕分けして、入っている土は麻生セメントですかいな、あそこにレンガにさせていただくというか、ああいう後処理をしたんですが、今回のこの土地の処分について、先ほどですね、この土壌汚染のこの市役所庁舎の土地が基準不適合だということがあったわけですが、搬出をする土地全体を処分、そういう、その何ですか、その入っている、入っていないということは関係なしに、全て前回やったような麻生セメントだとか、ああいうところに持って行って処理をしなくちゃいかんということなんでし

ようか。そこら辺ちょっと確認で。はい、亀屋局長。

○亀屋愛樹 庁舎整備局長 はい。これにつきましては、一応この調査に基づいて基準値をオーバーしているということになると、先ほど言いましたとおり、敷地内の土壌全体がもう汚染された土壌ということに判断されますので、搬出する場合につきましては、法律に基づいた運搬ということは、これは指定された業者によって、それで県外に、県外ではないわ、鳥取市以外の場所に搬出する場合については、そういう指定業者によって、正規の法律に基づいた処理によって処分をするというかたちを取らなきゃならないということになってきます。

◆房安 光 副委員長 はい。

◆橋尾泰博 委員長 はい、房安委員。

◆房安 光 副委員長 このいわゆるこの耐震改修の3点セットですね、によって土の量というのが、もし仮に計算されていて、その量によってこれだけの単価でいくらかかる、全部ではいくらかかりかかりますよということの、もし試算をされておるんだったらそれをお聞かせいただきたいんですけど。

○亀屋愛樹 庁舎整備局長 試算はしておりません。まだ具体的にどれぐらいの量が、ボリュームがあるのかというのはちょっとわかりませんので。ただ、単価としては、下水道貯留管をやったときに1立米当たり4万8,000円であったんですけども、その後、直近の下水道の工事の関係で秋里の、これが秋里の増補幹線築造工事というのをやっています。このときにも同じようにヒ素が出まして処理をしたんですが、そのときは3万2,000円というかたちで、技術も進化しまして、乾燥させてボリュームを減らしていく、こういったことによって単価が下がってきたということで3万2,000円ということがありますので、あとは出す量によってそれをかけてもらったらというかたちになってくると思います。目安としてはですね、はい。

◆橋尾泰博 委員長 はい、ありがとうございます。その他、ございますか。そうしましたら報告を受けたということでもよろしゅうございますか。はい。それでは土壌汚染調査の報告を承ったということにさせていただきたいというふうに思います。その他の項でございますけれども、委員の皆さんの方で何か御意見等があれば承ります。ないようでしたら、調査特別委員会を終わらせていただきたいというふうに思います。調整会議の方に切り替えをさせていただきたいというふうに思いますが、よろしゅうございますか。はい。それでは庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会を閉めさせていただきたいというふうに思います。

午後2時20分 閉会

鳥取市議会委員会条例第28条第1項の規定によりここに署名する。

鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員長

橋 尾 泰 博